

**「どうすればエネルギー転換は
うまくいくのか?」**

【基調講演】
早稲田大学文学学術院教授 **西城戸 誠氏**

日時▶1月22日(日) 14:00~16:30(開場13:30)
会場▶仙台市市民活動サポートセンター
6階セミナーホール **Zoom配信あり**

主催／みやぎ地域・市民電力連絡会
問い合わせ／松浦 feff10@yahoo.co.jp 022-746-3224

私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です

みやぎ民医連

発行所 宮城県民主医療機関連合会
仙台市青葉区木町通1-8-18
〒980-0801 田村ビル5F
TEL 022-265-2601
FAX 022-263-8266
e-mail:dai@miyagi-min.com
発行人 坂田 匠
1日・15日 月2回発行 1部 50円

県連職員のみなさん、新年あけましておめでとうございます。

2022年は国内外の情勢が激変し、まさに激動の1年でした。県連内では県連総会が2回開催されるなど、県連職員のみなさんには1年間大変お世話になりました。

さて、自公政権が長期にわたり社会保障削減路線を継続してきた結果、医療と福祉の現場はゆとりのないものになってしまいました。そこに2019年の年末から始まったCOVID-19パンデミックが襲い、医療・福祉の崩壊とでも呼ぶべき事態になり、未だ出口が見えません。現場の困難が増す一方で、医療や福祉から締め出され、適切なケアを受けられないまま命を失う人々を生み出しています。

2023年は、軍備増強で社会保障の切り捨てが進むのか、そのような政治から大きく転換し、医療・福祉の充実と舵を切るのか、まさに瀬戸際の年になると思われます。地域で患者さんや利用者さんの困難に寄り添いながら、現場の悲痛的な声や願いを政府や自治体に届け、社会保障の充実を求めて力を合わせましょう。

宮城民医連会長 宮沼弘明



宮沼弘明会長

新年あけましておめでとうございます。

2022年は国内外の情勢が激変し、まさに激動の1年でした。県連内では県連総会が2回開催されるなど、県連職員のみなさんには1年間大変お世話になりました。

さて、自公政権が長期にわたり社会保障削減路線を継続してきた結果、医療と福祉の現場はゆとりのないものになってしまいました。そこに2019年の年末から始まったCOVID-19パンデミックが襲い、医療・福祉の崩壊とでも呼ぶべき事態になり、未だ出口が見えません。現場の困難が増す一方で、医療や福祉から締め出され、適切なケアを受けられないまま命を失う人々を生み出しています。

2023年は、軍備増強で社会保障の切り捨てが進むのか、そのような政治から大きく転換し、医療・福祉の充実と舵を切るのか、まさに瀬戸際の年になると思われます。地域で患者さんや利用者さんの困難に寄り添いながら、現場の悲痛的な声や願いを政府や自治体に届け、社会保障の充実を求めて力を合わせましょう。

新年のあいさつ

新たな上昇軌道にのる 節目の年にしましょう

宮城民医連会長 宮沼弘明



「飛翔」
写真：大賀直純(県連事務局)

健康手帳

11月6〜20日エジプトで国連気候変動枠組条約第27回締約国会議(COP27)が開催された。以前のCOPを見ていると、古くは「京都議定書」、2015年には「パリ協定」、などの話題があり、環境問題が起因する災害等が、顕著な昨今の状況から、今回の会議でも何か大きなアクションがあるのではないかと期待していた。▼しかし、会期が終わり、議論の全体が見えた印象としては、なんだかモヤモヤ。▼詳細を見ると、前進しているところや、被害を受けている低開発途上国などに対する国際的な支援について、初めて正式な議題として議論されたなど前向きなものもあったが、以前に決めた計画の実施などが十分でなく、各国によってその状況も考え方もバラバラ。▼この状況で2030年までに1.5℃の抑制は可能なのか。▼しかし、我々も人任せにしておくだけでは未来に対して無責任であり、この状況も変わらない。それでは何を必要があるのか。まずはより多くの人にこの状況を知ってもらい、個々の力が小さくても、その人の輪が大きくなれば影響力は変わってくる。▼県連環境問題を考える会では公式LINEで情報を発信しているのぜひ参考にしてほしい。

環境問題を考える会
公式LINE



